体験的・探究的に学ぶ教育の推進

～地域性を踏まえた知的好奇心を高める学びの創造を通して～

地域の特色ある活動

群馬県沼田市教育委員会

1　森林文化都市「沼田市」の紹介

豊かな自然に恵まれる沼田市は、長い年月をかけて作り上げられた河岸段丘、「東洋のナイアガラ」と称される吹割の滝、関東有数のブナ林を誇る玉原高原などを有し、森とともに歩んできました。河岸段丘の上に広がる「天空の城下町」は歴史に彩られ、人の力では作れない自然と、人が作ってきた文化とが融合する森林文化都市です。森に囲まれ、人と自然とがふれあい、住民にとっても、訪れる人にとっても心地よい、「こころ豊かに暮らし、しあわせを実感できるまち　沼田」を目指しています。

現在、小学校は11校、中学校は9校、幼稚園は2園、児童生徒・園児数は約2,800人です。「創造・協働・意思疎通」を大切にしながら、「自律・共育」をキーワードに、未来を担うたくましいひとづくり・まちづくりを目指しています。

2　ぬまた未来創造学

令和6年度より、ふるさと沼田の未来を担う「たくましいひとづくり・まちづくり」を目指して、地域を愛し親しむ心、地域を誇りに思う心を育むために、自分が生まれ育ったふるさとを知り、よさを学ぶ「ふるさと学習『ぬまた未来創造学』」を推進しています。沼田の自然、歴史、産業、人情、まちづくりの様子などを、地域の資源と人にふれながら体験的かつ探究的に学ぶことで、子供たちの自己有用感を高め、生きる力を育む教育を充実させていきたいと考えています。


カワニナを放流する小学生

薄根小学校では生活科や総合的な学習の時間に、農林水産省の「つなぐ棚田遺産」に指定された石墨棚田において、薄根地域ふるさと創生推進協議会と協働し、6月からホタルの餌となるカワニナの飼育を行い、11月に棚田周辺の小川に放流します。また、冬の棚田を彩るイルミネーションづくりにも携わり、地域について考える力の育成や、地域のよさを知る機会につながっています。

学区の80％以上が山林になっている利根中学校は、かつて林業で栄えた歴史を有しながらも、木を切る経験のない生徒が大半を占めています。3年生の総合的な学習の時間では、利根沼田森林組合の協力を仰ぎ、実際に山で木を切る体験を通して、新鮮な発見や感動を体全体で味わっています。

さらに、自然との関わりが少なくなった子供たちが、自然に親しみ、リーダーシップを養うとともに、ふるさとを愛する心を育むこ


地域の方々の指導を仰ぎ、木を切る中学生

とを目指し、「ぬまたネイチャースクール in 尾瀬」を実施しています。

尾瀬高校の皆さんの協力を仰ぎ、1日目は尾瀬高校が取り組んでいる保全・保護活動に係る実践研究発表を通して尾瀬について学ぶとともに、青少年育成連絡協議会ジュニア・リーダー部に所属する高校生とのレクリエーションを体験します。2日目は、実際に尾瀬ヶ原に行き、自然観察会を行っています。

3　「わくわくスクール沼田」の取組

本市の児童生徒が知的好奇心や興味・関心を高め、楽しく主体的に学び続けることを目指し、体験的・探究的な活動を重視した独自施策を展開しています。

(1) たんばら・森林（もり）の学校

森林文化都市宣言を掲げる本市では、市制70周年記念事業の一環で、全ての小学4年生が森林のもつ機能や働き、環境保全の重要性等について、ブナ林が原生林に近い状態で保存されている玉原高原をフィールドとする散策や、ブナの幼木移植作業を通じて、玉原高原の価値を認識し、ふるさとに対する誇りと愛着の促進を図ることをねらっています。



クマの爪あとがついたブナの木を指さす小学生

利根沼田自然を愛する会のガイドにより、森でクマの爪あとが残るブナやセミの抜け殻、湿原でサンショウウオの卵などを発見した小学生は、歓声を上げて喜んでいました。

(2) 中学生国際交流プログラム

社会の国際化が急速に進展しており、国際性豊かで友好親善に努める生徒を育成するため、これまではオーストラリアに20名弱の中学3年生を派遣していました。



英語で交流する中学生

しかし、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により、令和2年度からの3年間は海外派遣を中止しました。令和5年度からは、民間事業者に委託したり、1人1台端末を活用したりして、オンラインプログラムを実施し、英語を用いてフィリピンの中学生との交流を図っています。

今年度も、100名を超える市内の中学生が、お互いの生活や文化について英語で交流し、友情を育み国際感覚を磨きました。

4　まとめ

令和6年度は、全ての小中学校及び幼稚園で「ぬまた未来創造学」を推進するため、教育研究所の小中学校班が実践的に研究を進めています。また、市内の全教員が参加する研修会で、群馬大学共同教育学部附属中学校の教諭らとディスカッションを行い、体験的な学びの充実に向けた授業構想、情報の整理・分析、探究的な学習の推進、郷土愛の醸成等について、学びを深めているところです。

未来を担う子供たちが、将来に渡って予測困難なことに立ち向かうため、自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力の育成に向け、地元のよさを体験・探究し、ふるさとを好きになることを期待して、挑戦し続けていきます。



教育長
竹之内　篤